

企画セッション：1G4

IMS 等の標準規格を用いた教育サービスの共有化から

ラーニングアナリティクスへの発展

企画部会： オープンソース技術部会

オーガナイザー： 中野 裕司（熊本大学）

セッション概要：

教育関連システムにおける標準規格の重要性は、SCORM 等によるコンテンツの共有化から IMS LTI 等による教育サービス自体の共有化へと発展してきたことから理解できる。さらに、最近、Experience (TinCan) API、IMS Caliper 等により、学習活動の蓄積やその解析、学習者へのフィードバック等といったラーニングアナリティクスへと向かいつつある。オープンソース技術部会では、昨年初めて「LTI を用いた教育サービスの共有化とその実例」というテーマで企画セッションを行い大勢の参加があった。今年度は、さらに進め、LTI による LMS に依存しない教育サービスの事例紹介と、Experience(TinCan) API、IMS Caliper 等に関して専門の先生方からのご解説・話題提供を受けた後、大学における今後の活用等についてフロアを交えての議論を行う予定である。

第 I 部 解説・話題提供（60 分）

<IMS LTI の実践的活用事例の紹介>

藤井 聡一郎（法政大学）「LTI に対応したプログラミング学習支援ツール max+の開発と運用」
(概要) 法政大学の FD 開発プロジェクトにて Learning Tools Interoperability(LTI)に対応したプログラミング教育支援ツール max+を開発し理工学部の授業で試験運用を行った。max+はプログラミング課題の自動採点機能を持ち、LTI に対応する様々な LMS に組み込むことが可能である。このセッションでは max+の概要や授業での運用の様子、今後の展望について発表する。

<Experience API (xAPI)の紹介>

加藤 泰久（日本電信電話株式会社）「Experience (TinCan) API の概要と活用方法」
(概要) 2013 年 4 月に公開された、学習活動を記録する規格である Experience (TinCan) API の仕様を、日本イーラーニングコンソシアムの TinCan プロジェクトにおいて、2014 年 2 月に日本語訳として公開。Experience API の仕様の概要とその活用方法を紹介。

<IMS Caliper の紹介>

高瀬 拓史（イースト株式会社）「IMS Caliper Analytics 1.0 の全貌」
(概要) 2015 年 10 月に仕様が公開された学習測定フレームワーク Caliper Analytics 1.0 の仕様と実装の紹介。

第 II 部 質疑・ディスカッション（30 分）

第 I 部の講演内容に関する質疑や、今後の学習成果蓄積やラーニングアナリティクスに関して、講演者、フロア全体でディスカッションを行う。大学 ICT 推進協議会の担う役割についても議論したい。